



松濤園には4棟の展示館があり、それぞれの建物は日本各地から移築、または復元した日本家屋を活用しています。

その周りを三之瀬瀬戸を借景とした日本庭園が囲み、散策しながら歴史に触れることができる文化施設です。



御馳走
一番館
朝鮮通信使資料館

唐子と 朝鮮通信使

日本の伝統的な図案の中に、唐人や唐子というものがあります。「唐人」は中国大陸から来た人を指しますが、外国人一般を唐人と呼ぶこともありました。江戸時代に来日した朝鮮通信使もまた唐人や唐子として受容されています。岡山県瀬戸内市牛窓に伝わる唐子踊りや、三重県津市分別町の唐人踊りにその影響を見ることができます。また、絵画作品のモチーフとしては、喜多川歌麿の見立唐人行列や各種の唐人行列図などに見ることができます。

本展では、日本の各地で作られた唐人や唐子をモチーフとした作品や、唐子人形と組み合わせられた図案として用いられる、江戸時代の象にまつわる話などを紹介します。



「唐子屏風」 狩野春笑亮信・江戸時代中期・紙本着色・六曲一隻



「唐子屏風」 紙本着色・六曲一隻



「染付芙蓉手 VOC 歌字文大皿」
元禄様式・1690-1710 年代

江戸時代初期に始まった伊万里焼は、様々な歴史的事変や流行の影響を受けながらスタイルを変えていきました。

江戸時代に入るまで日本は、磁器の入手を中国からの輸入に頼っていました。文禄・慶長の役がきっかけで日本に渡って来た朝鮮人陶工・李参平が肥前・有田の地で原材料となる陶石を発見したことにより、国内での磁器生産が始まりました。これが伊万里焼です。産地の肥前では、これを自らの切り札にすべく生産の向上に努めました。献上を目的とした鍋島や、西欧向けの製品である柿右衛門様式や金欄手様式を生み出しました。

本展では、所蔵の伊万里焼から、作られた時代が垣間見える品々を並べてご紹介します。

特集展示《日本の近代陶芸》

江戸時代まで陶磁器生産は、職人による分業生産が中心でしたが、明治に入り「陶芸」という芸術分野が確立します。個性や創造性を表現するため自ら陶芸の世界に入った者や、製陶家業に生まれその伝統を継ぎながらも己の表現に昇華した者など、大正から昭和に活躍した陶芸家を所蔵の作品からご紹介します。

陶磁器館

時代と 伊万里焼



「青磁下蕪花瓶」板谷波山



あかり の館

山口県上関町から移築した商家を利用して、世界の灯火器を展示しています。



蒲刈島 御番所

江戸時代、この下蒲刈にあった御番所を上関に現存している建物を参考に復元しています。

◆交通 Access

🚗 広島市内から車で約60分

呉市内から国道 185 号線を竹原方面へ、安芸灘大橋(有料)を渡って最初の島が下蒲刈町です。下蒲刈市民センター前の無料駐車場をご利用ください。駐車場から松濤園まで 80m。

指定施設にて 1,000 円以上ご利用の方に安芸灘大橋の帰りの通行券を進呈！詳しくは、くれ観光情報プラザ TEL.0823-23-7845 まで。

🚆 呉から電車とバス

JR 呉線で広島または仁方駅で下車し、駅前最寄りのバス停留所から瀬戸内産交株式会社のバス「田戸・大浦・宮農センター・沖友天満宮方面」行きに乗車。下蒲刈町内「三之瀬」停留所下車。停留所から松濤園まで 100m。バスに関するお問い合わせ 瀬戸内産交株式会社 ☎ 0823-70-7051



周辺施設 のご案内

近代日本画壇の名品が、本格的木造建築の中鑑賞できます。
蘭島閣美術館
広島県呉市下蒲刈町三之瀬200-1 ☎0823-65-3066

2024.1/10(水)～3/4(月)

所蔵品展Ⅲ
『郷土ゆかりの作家たち』

小高い丘の上に建つ、洋画家・寺内萬治郎の常設展示館。

蘭島閣美術館別館

広島県呉市下蒲刈町三之瀬195 ☎0823-65-2500

2024.1/17(水)～3/25(月)

企画展

『Technoscape in Kure
鉄の記憶 製鉄所のある風景
—ありがとう日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区—』

京都洋画壇の巨匠、須田国太郎の常設展示館。

三之瀬御本陣芸術文化館

広島県呉市下蒲刈町三之瀬311 ☎0823-70-8088

2024.2/21(水)～4/22(月)

所蔵品展Ⅴ
『生誕100周年 岡崎勇次』